

大阪大学総合学術博物館 第10回企画展

漆の再発見

日本の近代化学の芽生え

J A P A N

提供:そごう百貨店
「エレベーター扉 1935年」

国際的に“japan”と呼ばれるなど、日本を代表する伝統工芸品の一つである漆器は、日本国内にとどまらず世界各国の人々の心を惹き付けてやみません。黒く美しい光沢を放つ塗料として用いられる漆は、漆の木の樹液を加工して得られる天然樹脂であり、ウルシオールと呼ばれる化合物を主成分としています。樹液の採取から漆器が出来上がるまでの工程については博物館等で目にする機会も少なくありませんが、漆が樹脂となるその過程を化学的に説明されることは多くなく、さらにはウルシオールの構造決定に至る歴史の解説は専門書に留まることがほとんどです。このウルシオールの構造決定に至るまでの研究は、じつは日本における有機化学の発展の原点でもあり、大阪大学理学部化学科の創設に携わった眞島利行教授の業績です。本企画展では、日本人の智慧の集積である漆の工芸品作成工程に、有機化学研究の歴史も交えた化学的解説を加えることで、「伝統工芸という芸術」とアカデミックな「化学という学問研究」の融合を図り、漆の魅力を新たな視点から再発見する機会を与えることを趣旨とします。



2010年1月16日[土]→3月20日[土] (日曜・祝日は休館)
10:30~17:00 入場無料

スペシャル対談

2010年2月3日(水)

午後3時から

北村昭齋(人間国宝、重要無形文化財保持者)／鷲田清一(大阪大学総長)／橋爪節也(博物館教授)

ミュージアムレクチャー

2010年2月6日(土)

午後1時から

【第19回】八坂寿史(財団法人美術院国宝修理所)

「木彫文化財保存修復-現場での漆の使われ方とそのコツ」

午後3時から

【第20回】山本勝巳(前愛媛大学大学院法文学研究科)

「漆・漆器産業の盛衰と化学産業—漆器産業再生の鍵を探る—」

2010年2月20日(土)

午後1時から

【第21回】大藪 泰(京都市産業技術研究所 工業技術センター)

「漆の可能性を考える」

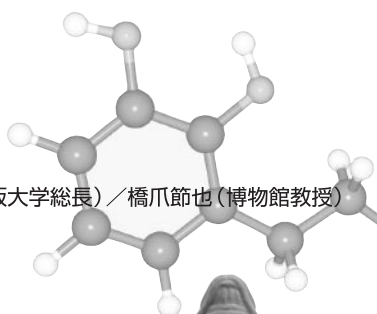
午後3時から

【第22回】芝 哲夫(ペプチド研究所)

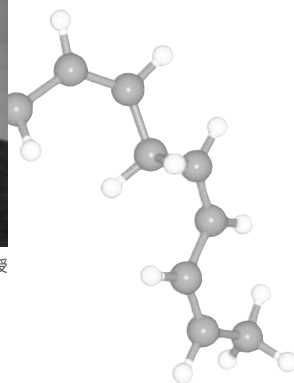
「眞島利行の漆の化学的研究」

スペシャル対談、ミュージアムレクチャーは3階セミナー室で開催。

ともに聴講自由、30分前より受付開始。定員50名。



眞島利行教授



▲ウルシオールの分子構造



「試作 脱活乾漆参考品(阿修羅像)」
(財)美術院国宝修理所蔵

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043大阪府豊中市待兼山町1-20

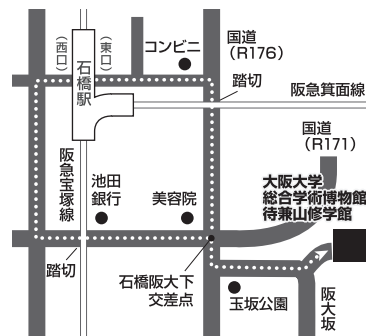
TEL 06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

主催:大阪大学総合学術博物館

共催:大阪大学大学院理学研究科

協力:漆を科学する会／北村昭齋(人間国宝)／日本化学会近畿支部／
近畿化学協会／大阪大学21世紀懐徳堂



交通のご案内

阪急宝塚線「石橋駅」下車、徒歩10分

※公共機関をご利用ください。

また、当館はバリアフリーですので、障害者向駐車スペースをご活用ください。